

《報告》

下関市(山口県)で確認したイトキンシゴケと県内のキンシゴケ属について

林 正典

〒740-1432 山口県岩国市由宇町神東 2385

はじめに

筆者は2020年より県内各地のアオギヌゴケ科を中心に調査し、それぞれの種の特徴や生育環境などをまとめている。その過程で下関市南西部勝谷地域にある公園や神社等を調査している際、勝谷中央公園のスナゴケやハネヒツジゴケのマットの中に深緑色で葉が茎や枝に圧着したやや小形の蘚類を見つけた。これまでの調査では見られない特徴だったため一部持ち帰って検鏡した。その結果山口県では初確認となるキンシゴケ科キンシゴケ属に属するイトキンシゴケ *Ditrichum lineare* (Sw.) Lindb. であった。

以下にその種の形態的な特徴とこれまで県内で確認したキンシゴケ属についての検索表も付記する。

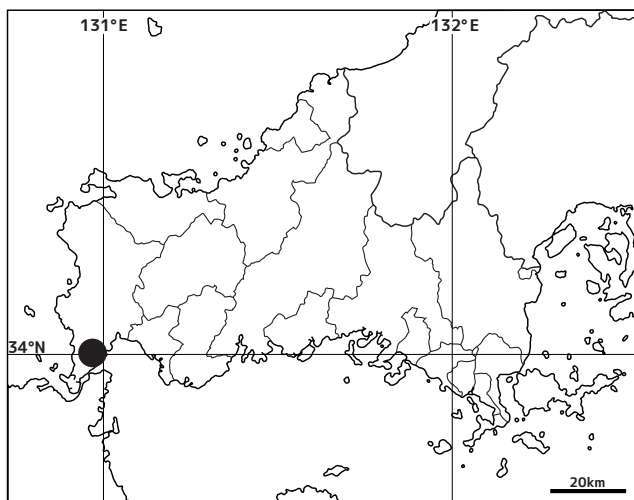


図1. イトキンシゴケ確認地

1. キンシゴケ属の特徴

キンシゴケ属は、これまで12種が日本より報告されている。県内ではキンシゴケとベニエキンシゴケの2種が確認されている。

本属の特徴は植物体の小型～大型で、茎長は10-50 mm、葉長は1.4(-5) mmで披針形～鋭い披針形、中肋は葉頂に届くが葉頂部ではほとんど中肋となる。葉身細胞は矩形～線状、中肋断面では背腹両側にステライドが分化する。蒴は円筒形～長楕円状卵形で相称あるいは非相称、蒴柄は黄褐色～赤褐色、長さ(10-)20-40 mm、蒴歯は糸状で基部まで2裂、表面はパピラで覆われる。胞子は球形で表面



図2. 今回確認したイトキンシゴケ

にイボあるいは細かなパピラがある。雌雄性は雌雄同種と雌雄異株。

キンシゴケ属の種の同定・確認は、胞子体や雌雄花序がなければかなり難しいとされている。

## 2. イトキンシゴケ *Ditrichum lineare* (Sw.) Lindb. (図2,3)

松井ほか(1985)によると植物体は長さ2-7 mm, 茎は断面で丸みを帯びた楕円形, 薄壁で小さい細胞からなる中心束があり, 表皮細胞は厚壁な細胞層からなる。葉は長さ0.5-1.4 mm, 幅0.15-0.35 mm, 茎に弱く圧着し, 瓦状で3列配列, 卵状披針形, 中央部下部がもっとも幅広い, 葉頂に向かって次第に狭くなり, 短い溝がある。葉縁は普通2細胞層, 上部に弱くて不規則な鋸歯状でその他は1細胞層で全縁。葉身はなだらかに幅広く反曲する。中肋は葉頂に達し, 幅広く, 葉基部では1/3を占める。葉身細胞は平滑, 薄壁からやや厚壁, 長方形(普通2-7:1), 基部では幅6-8  $\mu\text{m}$ , 基部から上部に向かって次第に短く細くなる。仮根は赤褐色から明褐色, 表面は平滑, 途中から丸みを帯びた細胞で繋がったコイル状の無性芽をつけるが今回の標本では確認できなかった。雌雄異株。孢子体は他の日本産の標本でも未確認である。生育地は低地から高地の路傍の土上と記載されている。

以上の記載は今回確認した種の形態的特徴と一致する。

Specimen examined : Japan, Honshu, Yamaguchi pref., Shimonoseki-shi, Shoyashin-machi, Shoyatyu park, 34.00392°N, 130.96882°E, 56 m alt., on soil. Oct. 12, 2012, Coll., M. Hayashi, No.34958, (in Herb. M. Hayashi, ver. D. Deguchi).

## 3. 山口県産キンシゴケ属の検索表

本県で確認したキンシゴケ属は, キンシゴケ *Ditrichum pallidum* (Hedw.) Hampe, ベニエキンシゴケ *D. rhynchostegium* Kindb., イトキンシゴケ *D. lineare* (Sw.) Lindb. の3種である。以下に検索表を示す。検索表は松井・出口(1987)が発表した検索表をもとに作成した。

a. 葉縁は反曲する。葉は披針形かそれに近い。 . . . . . イトキンシゴケ

a. 葉縁は反曲しない。葉は幅広い基部から急に針状となる。 . . . . . b

b. 雌苞葉は蒴柄をまかず, 長さ2-3 mm。中肋は葉鞘部の肩付近で大部分を占める。孢子の表面はイボで覆われる。 . . . . . キンシゴケ

b. 雌苞葉は蒴柄をまき, 長さ4-5 mm。中肋は葉鞘部の肩付近でその1/2を占める。孢子の表面はひびわれ状。 . . . . . ベニエキンシゴケ

本県におけるキンシゴケ属のうちキンシゴケは, 山地の湿った崖面, 溪流沿いのコンクリート壁でよく見られるが, イトキンシゴケやベニエキンシゴケは人家や公園の土上などで確認される。

## おわりに

今回報告したイトキンシゴケは, 山口県産蘚苔類チェックリスト(2015)には記載されていないため追加することとした。最後に今回の報告に関して, 標本の確認やキンシゴケ属について有益な情報や御助言をいただいた広島大学名誉教授 出口博則先生に感謝申し上げます。

## 引用文献

- 林 正典・塩見隆行(2015) 山口県産蘚苔類チェックリスト. *Naturalistae*, **9**: 63-96.
- 松井 透・出口博則・R.D. セッペルト(1985) アジア新産イトキンシゴケおよびその無性芽. *Journ. Jap.*, **60**(2): 33-39.
- 松井 透・出口博則(1987) 日本産キンシゴケ属の検索表. 日本産蘚苔類学会会報(*Proc. Bryol. Soc. Japan*), **4**(7): 112-115.
- 松井 透・岩月善之助(1991) 日本産キンシゴケ科の検索表. 日本蘚苔類学会会報(*Proc. Bryol. Soc. Japan*), **5**(7): 101-105.

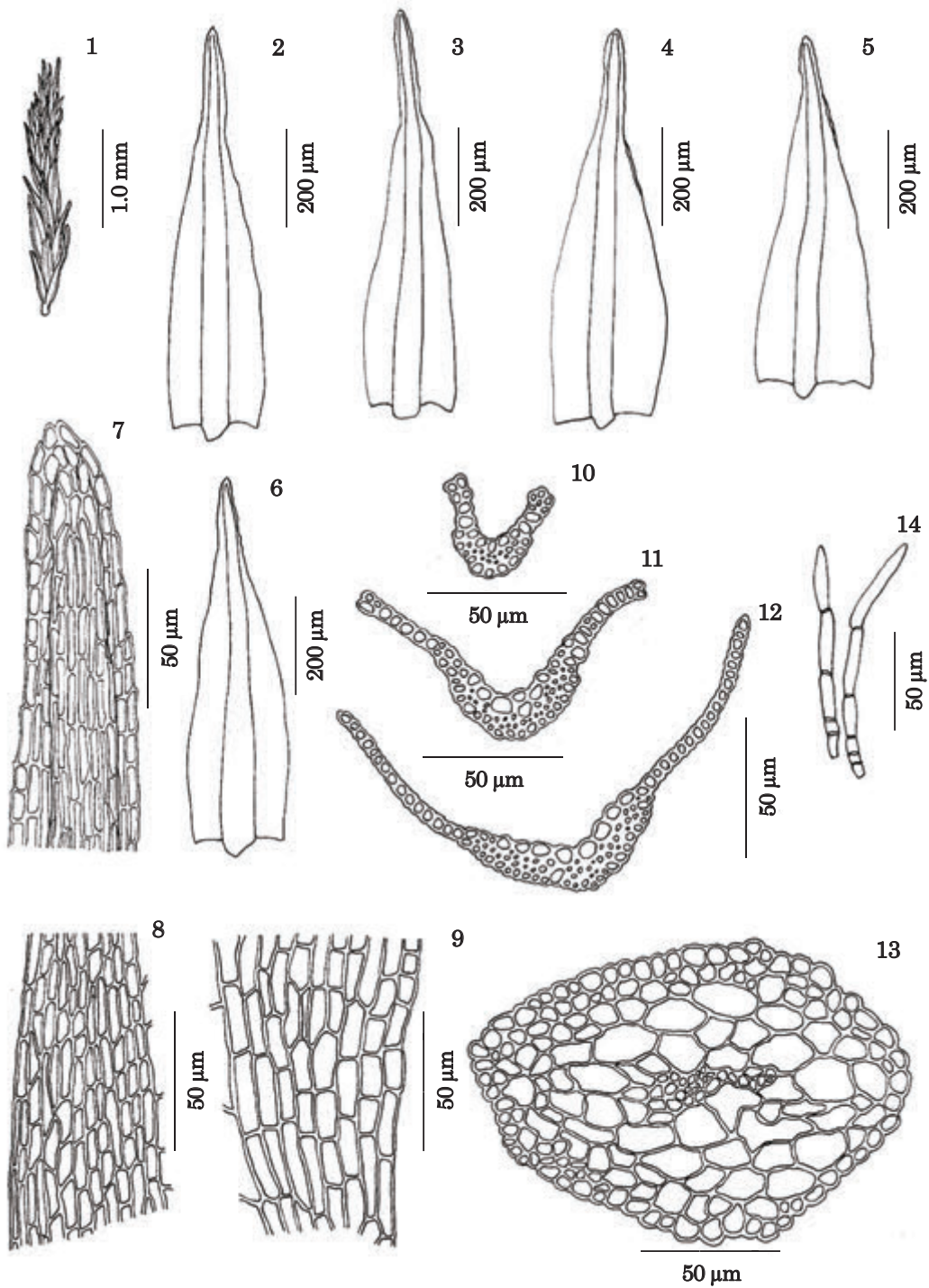


図3. *Ditrichum lineare* (Sw.) Lindb. イトキンシゴケ 1, 植物体(dry). 2-6, 葉. 7, 葉先端部背面細胞. 8, 葉縁中部細胞. 9, 葉翼部細胞. 10-12, 葉断面. 13, 茎断面. 14, 毛葉. ( M. Hayashi No. 34958, ver. H. Deguchi ).